



123

財団法人 すぎのこ文化振興財団

2011 7/1

事務局：〒171-0022 東京都豊島区南池袋4-19-6 TEL.03-3984-2396 FAX.03-3984-2264
 館能研修センター：〒357-0063 埼玉県蕨市蕨325-2 TEL.042-971-4121 FAX.042-971-4155
 徳島研修センター：〒377-1611 群馬県吾妻郡嬬恋村千原 TEL.0279-96-1015 FAX.0279-96-1662

2面・3面 巡回公演だより／新作「たのきゅう」／第32回松尾芸能賞贈呈式／すぎのこ保育教材のご案内／新人紹介
 4面 助成事業報告／第12期の役員及び評議員改選報告 ほか

http://www.suginoko.org/

E-mail: support@suginoko.org



第32回松尾芸能賞「研修助成賞」贈呈式

「松尾芸能賞」 （研修助成賞）受賞

理事長

小澤 幸雄

☆震災・原発復興はいつに…

東日本大震災から間もなく三分の一年、震災と津波による死者一万五千名以上、行方不明者七千余名、十二万名を超える避難生活者の涙と苦痛と心労はいかばかりか計り知れない。どんなに理解したつもりでも第三者には決して理解し得るものではない。罹災者の皆様にはただただ、お悔やみとお見舞いを申しあげるのみである。

原発災害に揺れる東日本の鬱陶しい梅雨空を吹き飛ばすような出来事があった。福島原発所長の海水注入継続事件である。上層部の指示に反してとった行動は業務命令と秩序について問題提起をしたが「生きるか死ぬか」の最前線で下した所長の決断に敬意と賞賛を贈る。法治国家において法と秩序の絶対性は当然であるが、未曾有の非常事態に多勢の船頭が法を論じていて遅きに失することがあつてはならない。所長の処分は口頭注意で幕が下ろされたらしいが、納得出来る内容で救われる思いがした。信念を持った

人の決断と行動は見ていて小気味よいほど揺るぎを感じない。非常時の最高指導者にはこうあつて貰いたい。超法規的断行があつても、被災者の速やかな安定安心のためなら国民は許すはずである。

☆松尾芸能賞受賞決定

本年明け早々、財団法人松尾芸能振興財団より松尾芸能賞贈賞の打診があつた。松尾芸能賞表彰は昭和54年、松尾芸能振興財団設立とともに始まった。財団設立者故松尾國三氏は九歳で旅回りの一座に入り、十五歳で興行師として独立し、日本伝統の「歌舞伎」を日本各地で興行する傍ら中国や米国等にも紹介し海外公演も実現した。日本初のテーマパークドリームランドを建設運営するなど、知る人ぞ知る興行界立志伝中の人で、松尾芸能賞は、そんな舞台の酸いも甘いも知り尽くした松尾國三氏が創設した賞で、舞台人にとって「舞台人の、舞台人による、舞台人のための賞」として何よりも意義深い賞である。すぎのこの全国巡回公演活動は若き日の松尾國三氏の活動に相通じる因縁めいたものを感じて「松尾芸能賞（研修助成賞）」を有り難く拝受する事になった。

第32回の受賞者は
 ○大賞に北島三郎氏（歌謡）
 ○優秀賞には豊竹嶋大夫氏（文楽）中村翫雀氏（演劇）香川照之氏（テレビ）・花柳輔太郎氏（舞踊）大空祐飛氏（演劇）の五人。
 ○新人賞には藤原道山氏（邦楽）瀬戸摩純氏（演劇）植村花菜氏（歌謡）の三人。
 ○「特別賞」に渡辺美佐子氏（演劇）。そして「研修助成賞」にすぎのこ（演劇）。
 すぎのこへの贈賞理由は、『昭和39年に設立以来「どの子にもナマの舞台の感動を！」の思いから、人形劇を保育園・幼稚園・福祉施設等全国を巡回公演し、今までに七万四千六百回（年平均一千六百回）、七百三十四万人の子どもたちに感動を届けました。人形を人形劇のみならず、生活指導や言語指導などにも活用され、普及浸透させる役割を果たしたことは高く評価されます』というもの。
 ☆公益財団法人移行に向けて
 公益法人制度改革により新制公益財団法人となるべく、47周年目の創立記念日八月一日の認定を目指し、三月に移行認定申請書を内閣総理大臣宛に提出し現在審査中である。
 今、子どもの減少・文化予算の減少と、ナマの舞台を届ける環境は過酷な状況にある。公益財団法人認定と松尾芸能賞受賞を起爆剤として舞台活動の復興に努めたい。

おどろおどろ



「たにし長者」

班

(榎本 均)

今年は梅雨入りが早かったようです。雨の日でも、「どの子にもナマの舞台の感動を」の合言葉を胸に、全国巡回公演を続けています。季節折々、それぞれの花が咲いている頃、会いにうかがいます。

東北は秋桜が咲いている頃だったでしょうか、去年、私は東北の太平洋沿岸地域を公演しました。今はそれもかなわない所もあり、何とも言葉がありません。車で巡った町々のあの美しい海岸の風景が心をよぎり、そこで出会った人々や子ども達の笑顔が蘇えてきて、本当に胸



が痛みます。

そんな沈痛な空気が我々の間に漂っていた中、明るいニュースが飛び込んで来ました。

すぎのこ46年間の地道な公演活動が認められ、第32回松尾芸能賞「研修助成賞」を受賞したのです。我々の活動の原点である、全国どこでもどんな地域へもうかがって「どの子にもナマの舞台の感動を」お届けする毎日の活動が、一輪の希望の花のように被災地の子どもの胸の中に咲いてくれる事を願っています。



「どろぼうのなみだ」

班

(榎崎 数馬)

「人を信じる心が生まれると花が咲く」。これは、私たちが上演する作品、「どろぼうのなみだ」の挿入歌の歌詞です。お話の中に出てくる「花の木村」という村が、彩り豊かな沢山の花々に囲まれていること、そこに住む人々の心が穏やかで優しいことから、「この村の花々は、村人たちのお互いを信じる心が咲かせているのだ」という歌詞ができました。

一方、お話の主人公は、泥棒

さんです。それも、おじさんで、ヒゲ面で、しょっちゅう怒る、お世辞にも穏やかで優しいとは言えない、こわい泥棒です。けれども、この作品を最後まで見れば、泥棒さんが、いつしか花の木村の花を咲かせることができるような人に変わっていたことがわかるでしょう。キーワードは「出会い」と「信じる心」でしょうか。どんな出会いなのか、それはぜひ劇の中でお確かめください。

そうそう、心を入れ替えた泥棒さんには、目に見える変化もおきています。その変化は、お話の最後の最後でわかるのです。が…それも、見てのお楽しみです。

「ねずみの嫁入り」

班

(岡部 千絵)

ねずみの嫁入り班は1学期は九州をまわっています。初日少し不安でした。(汗)でも自分が思っていたのと違い、めちゃくちゃ反応があり、すごく安心しました。小さい子ども達(1、2歳)でも最後までちゃんと



と見てくれて楽しんでいる様子で、園の先生方が驚いていました。ほとんどの子どもは上演が終っても、一つめのお話「ずい

新作

「たのきゅう」

(白石 高章)

「たのきゅう」という昔話、どこかで聞いたことがあるという方もいるのではないのでしょうか。担当する私自身も、いつかどこかで見て聞いて確かに知っている…と思ったものの、なかなか思い出せない。急いで絵本を手に入れ読んでみて、やっと思い出しました。



一息で説明いたしますと、昔々、たのきゅうという役者がうわばみにタヌキと間違えられ変装してみせたところ、気に入られ弱点を教えあつて別れるが、みんなにばらしてしまい、怒ったうわばみが仕返しにたのきゅうが苦手だと言っていた大判小判を投げつけて帰っていく、というオチのあるとっても面白いお話です。

今回は子ども達により身近に感じて楽しんでもらおうということで、かわいらしい子どもものの『たのきゅうくん』が登場いたします。さらにお話は続き、子ども達がうわばみをやつつけにかけ、たのきゅうくんも後を追いかけて、さらにさらに…おつと、お話はここまで。後は人形劇を観てのお楽しみ。日頃の難しいことはいったん忘れて、大人も子どもも一緒に楽しくてもらえたらと思います。

てん」の唱えるお経をいつまでも言ったりしています。(笑)これから各地でたくさん上演しますので、より多くの子ども達の笑顔と会えるのが楽しみです。

「かもとりごんべえ」

班

(太田 令)

入団してから早7年。今回は、初めての二人芝居、そして二人旅、そして何よりも、初めての班責という重責を背負っての巡回公演になりました。

今までは、先輩方の後ろ姿を見つつ芝居をしていましたが、今回からは背中を見られながら仕事をこなしていく訳で、今まで味わったことのない緊張感を感じています。その緊張感に打ち勝ち、しつかり今回の巡回公演をやり遂げたいのために日々精進していきたいと思っています。



すぎのこの保育教材

保育者のための…人形劇じゃない人形劇

この本は、すぎのこが人形劇をもって全国の幼稚園保育園を巡回公演する中で、人形劇を保育に取り入れている施設の先生達から受けた質問に、保育の場における人形劇の考え方を説いた指導書です。

お金をかけず、時間をかけず、それでいて効果的な人形や舞台、セットの作り方や使い方などを、イラストをふんだんに入れて解りやすく解説した保育者必携の書です。

著者／小澤アキラ 定価：2,000円(税込み)

地球環境を大切に作る絵本シリーズ

「とべ! ドードー」など

巡回公演でもお馴染みの原作の絵本です。

定価：各1,500円

(税込み)



とべ! ドードー

みどりのほし

やくそく

日常の保育の中に影絵紙芝居を

影絵紙芝居とは、影絵でできた紙芝居です。大きさは一般の紙芝居と同様ですので、手軽に日常の保育の中に影絵の美しさを活用することができます。そんな影絵紙芝居の作り方をていねいに解説したDVDです。

「影絵紙芝居の作り方」DVD

上田順一／監修 定価：3,150円(税込み)



問い合わせ先…03(3984)2396 財団事務局

第32回松尾芸能賞贈呈式



賞状とブロンズ像の授与



近藤誠一文化庁長官と小澤理事長

受賞のインタビューを受ける理事長



第32回松尾芸能賞「研修助成賞」贈呈式には、近藤誠一文化庁長官も出席されたほか、各界で活躍されている方々の交流も活発に行なわれ盛

大な式典となりました。人形劇「たにし長者」の一場面も演じられ、出席者から盛大な拍手や声援をいただきました。

ほんわか劇場 (一人芝居)

公演先では「一人でされるんですか! 大変ですね。手伝いますよ!」といつも先生方に温かい言葉でむかえられます。このように『ほんわか劇場』は公演先でのご協力や関係者の努力のおかげで、舞台設定から音響、照明、上演まで一人でやるのが可能になった舞台です。また、装置、装飾、音楽や人形の一部が、身近にあるもので作った手作りの舞台ですので、先生方が保育で取り上げていただきたいものがいっぱいあります。

一つめのお話は、ペットボトルで作った【ピーマンとニンジン】で、服は古着を利用しました。簡単に作れて、アイデア次第でいろんな人形が作れます。子どもの時、図工や家庭科が苦手だった私が、今回は作るのが楽しくて仕方ありませんでしたから、お子さんと一緒に作っていただけたらそれは楽しい人形が作れると思います。

二つめのお話は、【やさしいライオン】の仕掛け絵話。すぎのこで長く上演しているこの作品の音楽効果は、亡き初代理事長がつくったもので、作品をより深く心に響くものにしてくれます。劇中に出てくる子守唄に耳を傾けて聞き入り、お話に引き込まれていく子ども達の姿も見られます。

三つめのお話【なかよし】は、すぎのこ創設初期よりある作品で、時代は変われど子どもの基本的な日常の遊びや関わりは変わらないと感じさせてくれる作品です。

先日、公演後に園長先生が、「今の子どもは、日常の家庭生活も時間に追われて忙しい時間を過ごしている。せめて園で観るものは、ホッとできる、心豊かになる作品を選びたい。ほんわか劇場は、先生方にとってはなんだか懐かしい感じのする、小さい子どもも落ち着いて最後まで観ることができるものでした。《ほんわか》という言葉自体、忙しい世の中であって忘れられている良い言葉ですね!」とおっしゃってくださいました。

一人での上演は、時にさびしく不安を感じる時もあるのですが、上演後子どもたちの「あー楽しかった〜」の笑顔と、先生方やご父兄の「ありがとうございました」の一言のためだったら、いくらでも頑張れる、もっといいものを作りたいと強く思いました。(和田 宣子)



香川 洋平



後藤 佳世



澤田 佳子

はじめまして。4月から研修生になりました「どろぼうのなみだ」班の後藤佳世です。旅をしてわかったこと、それは子どもや先生方に期待されているってこと。常にプロとしての自覚を持ち、どんな時でも笑顔で頑張りたいと思います。

こんにちは。すぎのこに入団してから早いもので2か月が経とうとしています。1学期は、北海道を「かもとりごんべえ」「しようじょう寺の狸ばやし」の2作品で回っています。子ども達の前で演じるのは初めてですが、いろいろな発見をしている毎日です。2学期からは「ごんべえさん」に別れを告げて、新しい作品で九州の皆さんにお会いする予定です。今後ともよろしくお願ひ致します。

こんにちは。はじめまして。「どろぼうのなみだ」班の香川洋平です。4月から役者として、すぎのこに携わらせていただいています。

人形劇、芝居、稽古、旅生活と、この4、5月は初めてづくしの毎日ですが、楽しんでやらせてもらっています。もともと子ども達に笑顔になつてもらうため、頑張っていきたいと思っています。よろしくお願ひします。

どろぼうのなみだ! 新人紹介

平成23年度 芸術文化振興基金助成事業



日本芸術文化振興会の助成事業「どろぼうのなみだ」全国巡回公演を開始致しました。

今年度で二年目となる「どろぼうのなみだ」全国巡回公演では、人形劇と照明器具を使った基礎的な影絵のコラボレーションによる作品を制作し、商業劇団ではうかがえない全国どこでもどんな小規模施設でもうかが

第12期の役員及び 評議員改選

第12期の役員及び評議員が改選されました。

平成23年5月1日～平成25年4月30日(50音順・敬称略)

理事(6名)

榎本 均 新任
小澤 幸雄 重任
川端 清 重任
清水 治 新任
下村 明 重任
山崎 靖明 新任

評議員(6名)

稲坂 良弘 新任
田中 久弘 新任
東野 麻衣子 新任
富所 香織 重任
馬場 龍之介 重任
森田 研作 重任

監事(2名)

岩田 克夫 重任
古賀 正弘 重任

決意も新たに、今後の活動に力を注いで参ります。
皆様の更なる御指導御支援をお願い申し上げます。

研修センターのご案内

つて、人形劇・影絵劇に親しんでもらい、未来を担う子ども達の情操と創造性を育むと共に、地域における芸術・文化・児童教育に携わる方々の創造活動への人形劇・影絵劇の可能性を示唆する事を理念として、展開しております。

今年度は新潟・東北・東海近畿地方で計160日、320回

当財団には、群馬県に日本小型自動車振興会(現財団法人JKA)の補助により建設された「すぎのこ山荘」と日本宝くじ協会の助成により整備された「わんぱく村」からなる「すぎのこ婦能研修センター」並びに埼玉県に日本宝くじ協会の助成により建設された「すぎのこ飯能研修センター」があります。

いずれの施設も緑ゆたかな自然に恵まれ、大変静かな環境に立地しています。
音楽や演劇等の芸術文化活動はもろろん、どなたでも時間を気にせず、自由にのびのびと、お使いいただける施設です。合宿や研修等で会場をお探しの方は、ぜひご検討下さい。(利用目的は原則自由ですが、冠婚葬祭やそれに類する事、営利目的の活動には使用できません)

「婦能研修センター」は、一年を通じてレジャーや野外活動の拠点としてご利用いただける他、敷地内にはテントサイト(シャ

公演を予定しています。

6月末迄の助成事業実施回数及び日数は次の通りです。

新潟県	53回	29日
石川県	2回	1日
福井県	7回	4日
埼玉県	1回	1日
計	63回	35日

日本芸術文化振興会のご支援に心よりお礼申し上げます。

ワー・トイレ完備の専用洗面棟併設)やバーベキューが楽しめる集会棟、アスレチックも整備され、多目的に活用できる施設です。

「すぎのこ飯能研修センター」は、都心から車で約一時間程度の場所にありながら、閑静で落ち着いた環境に恵まれ、135mの多目的フロアの他、研修室、和室、男女更衣室、シャワールーム等も完備しており、様々な研修や芸術文化活動に広くご利用いただける施設です。各施設の利用可能な日や時間等、詳細につきましては、左記へお問い合わせ下さい。皆様のご利用をお待ちしております。

婦能研修センターに関するお問い合わせ
E-mail/support@suginoko.org
または03(3984)2396

(事務局)
飯能研修センターに関するお問い合わせ
E-mail/info@suginoko.org
または042(971)4121

(下村)

劇団研究生を募集しています



すぎのこでは、子ども達に夢を届けるお手伝いをしていただける劇団員(人形劇俳優・制作者)の仲間を募集しています。全国の幼稚園・保育園や各種イベント会場・劇場などで人形劇の公演活動を通じ、たくさんの方の笑顔に出会える事がこの仕事の魅力です。巡回公演が中心ですので、人形劇俳優は長期間の出張が可能で、子ども好き旅好きの方で興味を持たれた方はぜひ、私達の活動にご参加ください。なお、未経験の方は研修・指導を行います。

条件や活動内容等、詳しくは事務局宛連絡ください。

E-mail/support@suginoko.org
または03(3984)2396

活動記録(平成23年4月～6月)

5/6	第一期全国巡回公演開始
5/9	日本芸術文化振興会助成事業「どろぼうのなみだ」全国巡回公演開始 於 新潟・石川・福井・埼玉
5/28	第63回定例評議員会 於 当法人事務所
5/28	第63回定例理事会 於 豊島区民センター(コアイけぶくろ)
5/30	第32回松尾芸能賞贈呈式 於 ANAインテリコン
6/30	平成22年度事業報告及び収支決算報告書を文部科学省に提出

すぎのこネットワーク(賛助会)へのお誘い

あなたのやさしさが
子どもの心を
育てます



すぎのこは子どもの理想像を「健康で好奇心が強く、行動的で創造性豊かな心のやさしい子」と定義し、その育成のため、創立以来活動を展開しています。

- 人形劇の巡回公演 ●劇場公演 ●舞台芸術による国際交流
- わんぱくクラブ・子どもの国際交流 ●講習会の開催・講師派遣
- 婦能研修センター・飯能研修センターの一般開放

これ等の活動を支援するために設けられた賛助会「すぎのこネットワーク」に参加しませんか?

入会すると下記の特典があります。

- ・季刊紙「すぎのこ」を年4回配布
- ・すぎのこ主催の各種イベント(わんぱくクラブ、劇場公演 講習会 舞台稽古見学)等の優先参加
- ・婦能研修センター(上信越高原国立公園内、宿泊施設わんぱくキャンプ場)の割引料金での利用
- ・すぎのこ飯能研修センター「ドリーム館」(埼玉県飯能市)の無料利用
- ・各種講師の紹介



会費制賛助会員			技能制賛助会員		
①賛助会費			②知識、技能、労力を提供する		
フレンド	年額	1口(3,000円)以上	フレンド	年間	2日以上
個人	年額	1口(10,000円)以上	個人	年間	5日以上
団体	年額	1口(30,000円)以上	団体	年間	10日以上

財団法人 すぎのこ文化振興財団

〒171-0022 東京都豊島区南池袋4-19-6 お問い合わせ/財団事務局(清水)

すぎのこネットワーク(賛助会)/代表世話人 土倉広子

http://www.suginoko.org/ E-mail:support@suginoko.org

TEL.03-3984-2396 FAX.03-3984-2264